

漁業経営の イメージを持とう



【経営モデル】^{さい}佐井村を事例に

漁業従事には、自営漁業と雇われ漁業があります。新規漁業就業者が漁業に参入する場合、乗組員として雇われて漁業を始めることが一般的です。

ここでは、自営漁業に参入できることを大きな特徴とした^{りょうしえんぐみ}漁師縁組事業を実施している佐井村を対象に、漁業就業者が定着していける経営モデルを例示してみます。

雇われ漁業（乗組員）タイプ

↔ 突きウニ

目標額	経営モデル	漁業の組み合わせと金額（万円）			操業スケジュール（月）											
		小型定置	底建網	採介藻（自営）	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
300万円	雇われ漁業（乗組員）	乗組員 180～		80～												

自営漁業タイプ

↔ 小型定置 ↔ 突きウニ ↔ ウニかご ↔ アワビ ↔ ナマコ
 ↔ ワカメ養殖（収穫） ↔ コンブ（採り・拾い） ↔ タコかご

目標額	経営モデル	漁業の組み合わせと金額（万円）			操業スケジュール（月）											
		採介藻	小型定置	その他	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
300万円	① 漁業のみ	100～	100～	釣り等 30～												
	② 養殖を追加	100～	100～	ワカメ養殖 30～												
500万円	③ 多種組合せ	100～	100～	タコかご 30～												
				ワカメ養殖 30～												
				釣り 20～												
				さし網・底建網 50～												
500万円以上	④ 底建網経営	80～		底建網 400～												

注) 採介藻 ・ 定着性の資源を漁獲する採介藻は、初期投資が少なく取組やすい自営漁業です。これには、突きウニ、ウニかご、コンブ（採り・拾い）、アワビ、ナマコ、モズクなどが含まれます。
 小型定置 ・ 2～4人の共同操業で行われることの多い漁業です。
 ・ 主にヤリイカを対象としています。

佐井村では、経営モデルのどのタイプでも、安定的に漁業所得を得られやすい採介藻漁業が組み合わせられています。

雇われ漁業（乗組員）タイプ 乗組員＋採介藻

主に底建網と小型定置の乗組員です。所得を増加させるために自営の採介藻漁業を組み合わせています。

自営漁業タイプ

所得目標

300万円：地域に定住していける経営モデル

① 漁業のみ 採介藻＋小型定置＋釣り

② 養殖を追加 採介藻＋小型定置＋ワカメ養殖

自営漁業だけに従事する場合は、採介藻漁業に小型定置漁業が組み合わせられます。

- ① 漁業のみでは、多くの場合、動力船が必要となります。
- ② 養殖を追加の場合には、養殖資材の準備が必要です。

所得目標

500万円：

地域漁業を担う中核的な漁業経営体の経営モデル

③ 多種組合せ 採介藻＋小型定置＋釣り＋タコかご等

時期や漁海況に応じて多種の漁業種類を組み合わせることによって、所得を増加させることができます。

このタイプに移行するためには、必要な漁具等を入手しなければならないのはもちろんのこと、漁業の経験を積み漁業種類ごとの漁法の習得や漁海況の見極め力の養成が求められます。同時に、新規漁業就業者が地域の漁業者との関係を築き、共同操業に参入していくことが、個人の漁業所得を増加させるうえでも、地域の漁業を継続させていくうえでも、重要なポイントとなります。

所得目標

500万円以上：佐井村の漁業をリードする経営モデル

④ 底建網経営

佐井村のなかで最も高い漁獲金額を示しているのが、底建網漁業です。法人経営も含めこの漁業を営む経営体は、複数人の乗組員を雇い地域経済への寄与も大きいものです。ただ、底建網漁業ができる地区や統数が限られていることや多額の投資が必要であることから、底建網漁業の経営に参入するためには様々な準備が必要となります。



▲乗組員同士で息を合わせて作業します



▲陸上での網直しも仕事のうち

漁業種類別の着業ポイント

佐井村の主な漁業種類ごとに、独り立ちまでに必要な事項を示しています。

項目	乗組員	採介藻	小型定置	釣り
正組合員資格	—	本来的には必要であるが、佐井村では新規就業者がすぐに操業できるように取り決めている	○	基本的には自由漁業
漁船	—	○磯船 (船外機エンジンの船)	○磯船 ◎動力船	◎動力船
漁具	—	○箱メガネ・ヤスなど 10万円～	◎網(高額)	○リール・仕掛け(漁業種類ごとに10万～) ◎魚群探知機・GPS・レーダー(100万円～)
漁場	—	佐井村前沖 どこでも可能	◎漁場利用に際して、 地区内で認定されないといけない	自由漁業
技術	○	○	○	◎漁場把握や仕掛けの選択など、高度な知識と技術が必要
仲間	役割を理解し、信頼関係を築いていく 努力が求められる	個人操業であるが、陸上作業に人手の確保が必要	共同操業で行われる場合が多い。共同操業のグループに参加する必要がある	操業は個人であるが、新規漁業就業者は知識や技術の獲得のために、師匠的な漁業者からある程度、習う必要がある

注) 困難の度合いを◎(比較的高い)と○(それほど高くない)で示した。

乗組員

多様な状況に応じて判断・指示が行える基幹的な乗組員になれるよう、経験を積み、技術を身に付けていく必要があります。

採介藻

佐井村の場合、漁場は地区の隔てなく前沖のどこでも操業できます。ウニやコンブ等では漁獲後の処理に時間がかかることから、陸上作業をサポートしてくれる人を確保する必要があります。

小型定置

小型定置の漁場利用に際しては、地区ごとに認定の手続きが必要です。また網が高価なため、ある程度の資金力も求められます。そのため、共同操業のグループに参入してスタートするのがスムーズです。

釣り

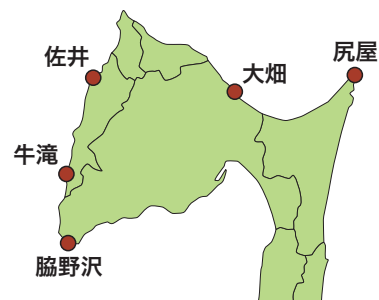
自由漁業であるため開始するのは容易であるものの、動力漁船が必要であり、また、魚種ごとに異なる漁場把握や仕掛けなど高度な技術と知識を身に付ける必要があります。はじめは師匠的な漁業者に同行させてもらい、知識と技術を身に付けていくことが求められます。

コラム 共同操業

共同操業は、1人で作業するよりも複数人で行った方が作業効率のよい漁業で行われています。作業の分担と漁獲金額の配分の関係は、地区や漁業種類によって異なります。例えば4人で4つの小型定置の作業を共同で行う場合、ア)各人が1ヶ統ずつ所有し、作業を相互に手伝うだけで漁獲金額を配分しないケースと、イ)小型定置網を複数人で所有し、作業も漁獲金額も共同操業を行ったメンバーで分け合うケースがあります。

下北地方の主要な漁業地区

下北地方と一言でいっても、地区によって漁業のあり方がかなり異なります。ここでは代表的な5地区を紹介します。



おおはた 大畑地区 (むつ市)

主要な漁業種類は定置とイカ釣りであり、若手漁業者の多くもこれらの漁業に従事しています。定置で漁獲される魚種は、スルメイカ、サケ、マス、ヤリイカ、ブリ、サバ、クロマグロなどです。近年、定置漁業とサーモン養殖会社で漁業従事者を募集しています。



さい 佐井地区 (佐井村)

佐井村の中心地で人のにぎわいがある地区で、佐井村漁協の本所もあります。法人化した小型定置漁業経営体があり、漁業新規就業者の受け皿となっています。隣のやごし矢越地区とともに、ワカメ養殖を行う経営体が多い地区でもあります。一部、農業を兼業する漁業者もいます。



うしたき 牛滝地区 (佐井村)

佐井村の南部に位置し、タラ底建網漁業が盛んで佐井村の漁業生産額の約8割を上げている(2017年時点)のが牛滝地区です。法人化した経営体もあり、乗組員を雇用していることから、若年の漁業者が多い地区です。



わきのさわ 脇野沢地区 (むつ市)

主要な漁業種類は、ホタテガイ養殖と底建網、定置です。網漁業では、マダイ・ヒラメ・マダラなどが漁獲されます。ホタテガイ養殖と底建網などの兼業経営では、乗組員を雇用しています。



しりや ひがしどおり 尻屋地区 (東通村)

尻屋崎の突端に位置する地区で、津軽海峡側と太平洋側の両方の海で漁業をしています。組合員のほぼ全員がコンブ、フノリ、ウニ、アワビなどの採介藻に従事し、漁船漁業ではイカ釣り、定置網、さし網、タコかご漁があります。青森県内でも有数の漁業後継者が多い地区です。